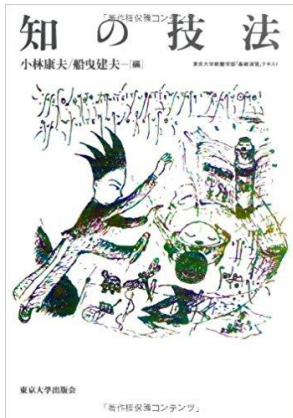
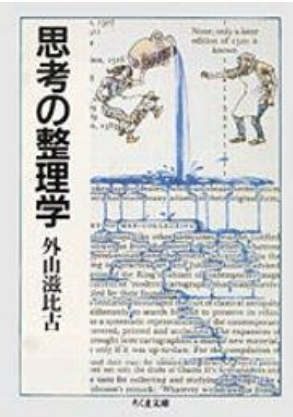


推薦図書アラカルト

難波義郎（建築学科）



知の技法 / 小林康夫, 船曳建夫編 ; 東京大学出版会 / 1994



思考の整理学 / 外山滋比古著 ; 筑摩書房 ; 1986



建築を楽しむ教科書 : BRUTUS 850号 : マガジンハウス ; 2017.7

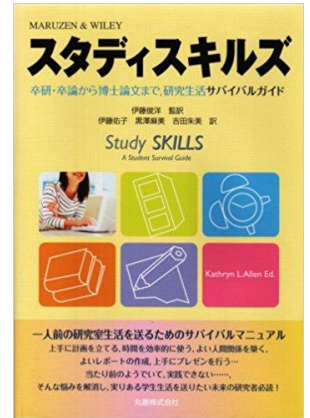
若者の「本離れ」・「図書離れ」が言われて久しい現代ですが、今回は、私見として以下にアラカルト風いくつかの推薦図書を挙げてみます。

学生生活編：工学部の学生の皆さんは、てくたまPASSPORTから「平成29年度フレッシュマンゼミナールテキスト」を入手して、4年間の学生生活の心構えや勉強の仕方を知ることが出来ます。全国的には、東京大学教養学部「基礎演習」におけるテキスト「知の技法」（東京大学出版会;1994，98年改訂）が市販されています。大学院生にもお奨めは、「スタディスキルズ」（丸善;2005）等があり、卒研・卒論から博士論文までの研究生生活サバイバルガイドと謳っています。また、学生の読み物としては、ベストセラーになった「思考の整理学」（外山滋比古;ちくま文庫,1986）や「大学時代に学ぶべきこと、学ばなくてよいこと」（鷲田小弥太:PHP文庫;2003）などが推奨されます。

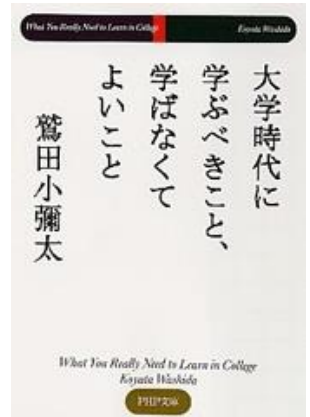
専門分野編：専門書は挙げるときりがありませんが、建築学科の学生以外でもわかりやすいその名も「建築を楽しむ教科書」（マガジンハウス:BRUTUS No.850 ; 2017.7）という雑誌が最近発行されました。日本の建築家や作品が紹介され、イラストや写真で丁寧に説明されており必見です。

一般文学編：古典から現代まで沢山の書物がありますが、これもきりがないので、私が読んだ著者名を若干列挙しておきます。私の学生時代の愛読書は、司馬遼太郎や遠藤周作、北杜夫、推理小説では松本清張、小松左京、横溝正史などです。少し軽い物としては渡辺淳一をよく読みました。最近では、村上春樹、東野圭吾と言ったところでしょうか。自分自身で検索してみてください。

さあ、知の世界への扉を開きましょう。



スタディスキルズ / Kathryn L.Allen 編 ; 丸善 ; 2005



大学時代に学ぶべきこと、学ばなくてよいこと / 鷲田小弥太著 ; PHP研究所 ; 2003